

(仮称) 医科大学院大学準備委員会 (第4回) 議事次第

日時: 令和4年11月28日(月) 15:00 ~ 16:30

場所: グランディエール ブケトーカイ(4F ワルツ)

- 1 開会
- 2 第3回準備委員会の概要 【資料1】
- 3 審議事項
 - (1) 想定する研究分野 【資料2】
 - (2) 「養成する人材像」の要点 【資料3】
 - (3) 附属病院に関する基本方針 【資料4】
 - (4) 取得できる学位、入学定員の方向性 【資料5】
- 4 報告事項
 - 基本構想の策定に向けた審議状況の整理 【資料6】
- 5 閉会

資 料

議事次第
委員名簿

- 資料1 第3回準備委員会の概要
① 第3回準備委員会 主な意見
② (仮称) 医科大学院大学 基本理念・基本方針 (案)
③ (仮称) 医科大学院大学準備委員会の進め方 (案)
- 資料2 (仮称) 医科大学院大学の研究分野のイメージ (暫定案)
- 資料3 「養成する人材像」の要点 (案)
- 資料4 附属病院に関する基本方針 (案)
- 資料5 取得できる学位 (案)、入学定員の方向性 (案)
- 資料6 基本構想の策定に向けた審議状況の整理

参考資料

- 参考資料1 第1回準備委員会 主な意見
- 参考資料2 第2回準備委員会 主な意見
- 参考資料3 附属病院の方向性 (第3回委員会資料)
- 参考資料4 医科大学院大学準備委員会設置要綱

(仮称) 医科大学院大学準備委員会 委員名簿

(敬称略、五十音順)

主 な 役 職 等	氏 名	出 欠	参加方法	
			会場	WEB
静岡県立病院機構 理事長	田中 一成 【委員長】	○	○	
慶応義塾大学 医学部 腎臓内分泌代謝内科 教授 静岡社会健康医学大学院大学 副理事長 (将来構想担当)	伊藤 裕	○	○	
京都大学理事・副学長 (プロボスト)	岩井 一宏	○	○	
静岡社会健康医学大学院大学 理事 (教育研究担当) 兼副学長	浦野 哲盟	○	○	
静岡県立大学 特別顧問	木苗 直秀	○	○	
一般社団法人静岡県医師会 副会長	齋藤 昌一	○		○
株式会社静岡銀行 取締役会長 一般社団法人静岡県経営者協会 会長	中西 勝則	○	○	
静岡社会健康医学大学院大学 理事長兼学長	宮地 良樹	○	○	
浜松医科大学 理事 (企画・評価担当) 兼副学長	渡邊 裕司	○	○	
公益社団法人静岡県看護協会 会長 一般社団法人静岡県訪問看護ステーション協議会 会長	渡邊 昌子	○	○	

出席委員 10 9 1

全委員数 10

第 3 回（仮称）医科大学院大学準備委員会 主な意見

【基本理念・基本方針】

田中 委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療は常に進歩しており、医療自体が「新たな医療」。生理学と病理学の距離が縮まり、疾患と生理学的な問題は境界が不明確になっている。 ・ 基本構想の骨子案への記載は、事務局暫定案を基本に、委員意見を反映させていただく。
岩井 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「新たな医療」の一例は、現在実際に行われている医療に新しい技術を導入し、今までにない医療を開発すること。 ・ 基礎研究を踏まえた革新的な医療とは異なるが、臨床ニーズに応じた新たな医療が広がる可能性はある。 ・ 「医療機関を中核とした」は、「医学部を中核とした」とすることの対極となる言葉 ・ 「医療機関」は県立病院が中心になるが、静岡に医師を残す上では、他の公立病院との連携が重要
浦野 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新しい大学院の独自性を生かした新たな学問領域が考えられる。 ・ 「医療機関」は県立病院が中心になるが、他の多くの県内病院が持つデータを活用した研究が可能
木苗 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究分野は、大きく考えてから絞っていけば可能性が広がり、他の研究機関にないこともできる。 ・ 海外にも出てグローバルに活躍してもらうことも考えるべき。
宮地 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「医療機関を中核とした」は、「臨床を指向した」、あるいは「治療を見据えた」と捉えることができる。
渡邊裕 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 臨床試験をはじめ、レギュラトリーサイエンス（科学技術の成果を人と社会の調和の上で最適化するための科学）も必要 ・ 革新的な医薬品、医療機器、医療技術の開発には、多様な分野の融合が必要 ・ 「医療機関」は県立病院のみに限定すべきでない。 ・ 医療機関を「中核とした」ではなく、「フィールドとした」とすべき

【想定する研究分野】

<p>田中 委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門医資格取得のみで満足せず、更に深い視点から医療を見ることが出来る医師を育てていきたい。 ・ 医療統計学は医学研究に必須の重要な分野。社会健康医学大学院だけでなく、臨床医を対象にする医科大学院にも必要 ・ 「感染」は社会健康医学においても大きな分野
<p>伊藤 委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「新たな医療」の考え方や、教員・学生像をどのように想定するかは、研究分野の設定においても重要 ・ 学生目線に立ち、彼らを誘導できる見せ方が必要。従来の専門領域から発想でき、発展できることが理解できる名称や領域設定が望ましい。 ・ 研究分野の概要に「感染」が挙げられていないが、感染分野は大きく、コロナを含めて考えていくことが必要
<p>岩井 委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関は大学と比較して診療科間の壁が低いので、医療機関を基盤に研究機関をつくることは非常によい。 ・ 学生数が多くないことから、静岡県や医療の発展にとって重要な研究分野を選択することが必要
<p>浦野 委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員、学生に対して魅力的であることが求められると同時に、県民の理解が必要
<p>中西 委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療統計学は医学の中にも取り入れた方が成果が出るのではないか。
<p>宮地 委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 臨床研究にとって医療統計学は非常に重要。社会健康医学大学院大学には統計の専門家がいるので、データがあれば医療統計に踏み出せる。

【附属病院の方向性】

<p>田中 委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> 附属病院の重要性について、県民の理解を得ることができる説明が必要 静岡市内に県立の薬学部と医科大学院があれば、新たな発展が期待できる。 大学病院は敷居が高いと思われる。大学病院から県民の方に歩み寄るような取組や姿勢を、文章で表現すべき
<p>伊藤 委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> 県民の理解を得るためには、研究成果である高度な医療技術などの還元、期待を持ってもらうことが必要。臨床研究に県民が参加するような、県民を巻き込んだ形での医療展開が望ましい。
<p>岩井 委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> アメリカにあるような「メディカルセンター」に研究者が入り、新たな医療をつくるのが、医科大学院の構想になる。 診療だけではなく、他の大学や産業界に開かれた、他機関との連携を積極的に推進する附属病院であることが重要 ハーバード大学のように、複数の関係する病院群が附属病院として機能する形も考えられる。
<p>浦野 委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> 医師だけでなく、多様な人たちが入る方が研究面で広がる。
<p>木苗 委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ローカルで考えた上で、グローバルにも発展する若い人を育てて欲しい。
<p>宮地 委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> 臨床にルーツを持つ研究機関であることが魅力になる。 がんセンターは東部の大きな病院であり、がんは重要なジャンル。がんセンターを附属病院やサテライトとすることは、研究、運営、双方にとって重要
<p>渡邊裕 委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> 静岡県には複数の県立病院があり、患者数の多さも大きな特徴になる。一つの病院に限定するべきでない。

(仮称) 医科大学院大学 基本理念・基本方針 (案)

○ 基本理念

健康長寿社会の実現に向け、新たな医療につながる、既存の枠にとらわれない研究群を創設し、横断的、融合的な学問を探求するとともに、国際的な視野を持ち、複数領域の臨床技術と研究能力を高め続ける医師を養成することを通じ、地域医療水準の向上を目指す。

○ 基本方針

基本理念の実現に向けた基本的な活動方針を以下のとおり定める。

1 新たな医療につながる学問の探求

学内をはじめ、他の大学や研究機関等との連携の下、臓器や専門領域といった、既存の枠にとらわれない研究群を創設し、横断的、融合的な学問を探求することにより、時代の要請に応じた新たな医療を創出する。

2 複数領域の臨床技術・研究能力を高め続ける医師の養成

関連する複数の専門領域において、生涯にわたり、患者ケアのための臨床技能と、発見した課題の解決に向けた研究能力を、自律的に高め続ける医師を養成する。

3 医療機関を**申核**（フィールド、基盤など）とした横断的、融合的な研究の推進

医療機関を**申核**（フィールド、基盤など）として、臓器等の枠を越え、横断的、融合的に研究を推進できる体制を構築する。

4 地域医療水準向上への貢献

研究機関をはじめ、医療機関、教育機関など、様々な地域資源を活かした人的交流や、研究連携、研究成果の臨床現場への還元などを通じ、地域医療水準の向上に貢献する。

5 国際的な視野の**養成育成**と**海外との**研究交流の推進

研究課題の解決に向け、国際的な視点で最先端の研究に取り組むことのできる医師を育成する。また、東アジアの日本という視点に立ち、海外の大学、研究機関等との共同研究を意欲的に推進する。

(仮称) 医科大学院大学準備委員会の進め方(案)

年度	回次	審議・報告事項	基本構想の項目				
			目指す方向性 (基本理念・方針)	附属病院	研究分野	養成する人材像	学位、入学定員
R3	1 3/29	(仮称) 医科大学院大学について意見交換					
R4	2 5/24	目指す方向性(基本理念・基本方針)について意見交換	意見交換				
	3 8/31	<ul style="list-style-type: none"> ・目指す方向性(基本理念・基本方針)〈暫定案〉について意見交換 ・想定する研究分野について意見交換 ・附属病院の方向性(確認) 	暫定案 意見交換	意見交換 確認	意見交換		
	4 11/28	<ul style="list-style-type: none"> ・想定する研究分野〈暫定案〉について意見交換 ・附属病院に関する基本方針(案)について審議 		基本方針(案) 審議	暫定案 意見交換		
		<ul style="list-style-type: none"> ・養成する人材像について意見交換 ・取得できる学位、入学定員の方向性について意見交換 				意見交換	意見交換
		基本構想の策定に向けた審議状況の整理(報告)	基本構想の策定に向けた審議状況の整理(報告)				
	5 1/23	<ul style="list-style-type: none"> ・想定する研究分野〈暫定案〉について意見交換 ・養成する人材像について意見交換 			暫定案 意見交換	暫定案 意見交換	
基本構想(事務局骨子案)について審議		事務局骨子案審議					
6 3/20	基本構想(事務局取りまとめ案)について審議	事務局取りまとめ案審議					
R5 以降	7	基本構想(最終案)を審議、基本構想を決定	6回目の審議状況により開催要否を判断				
	—	基本計画の検討・策定					